

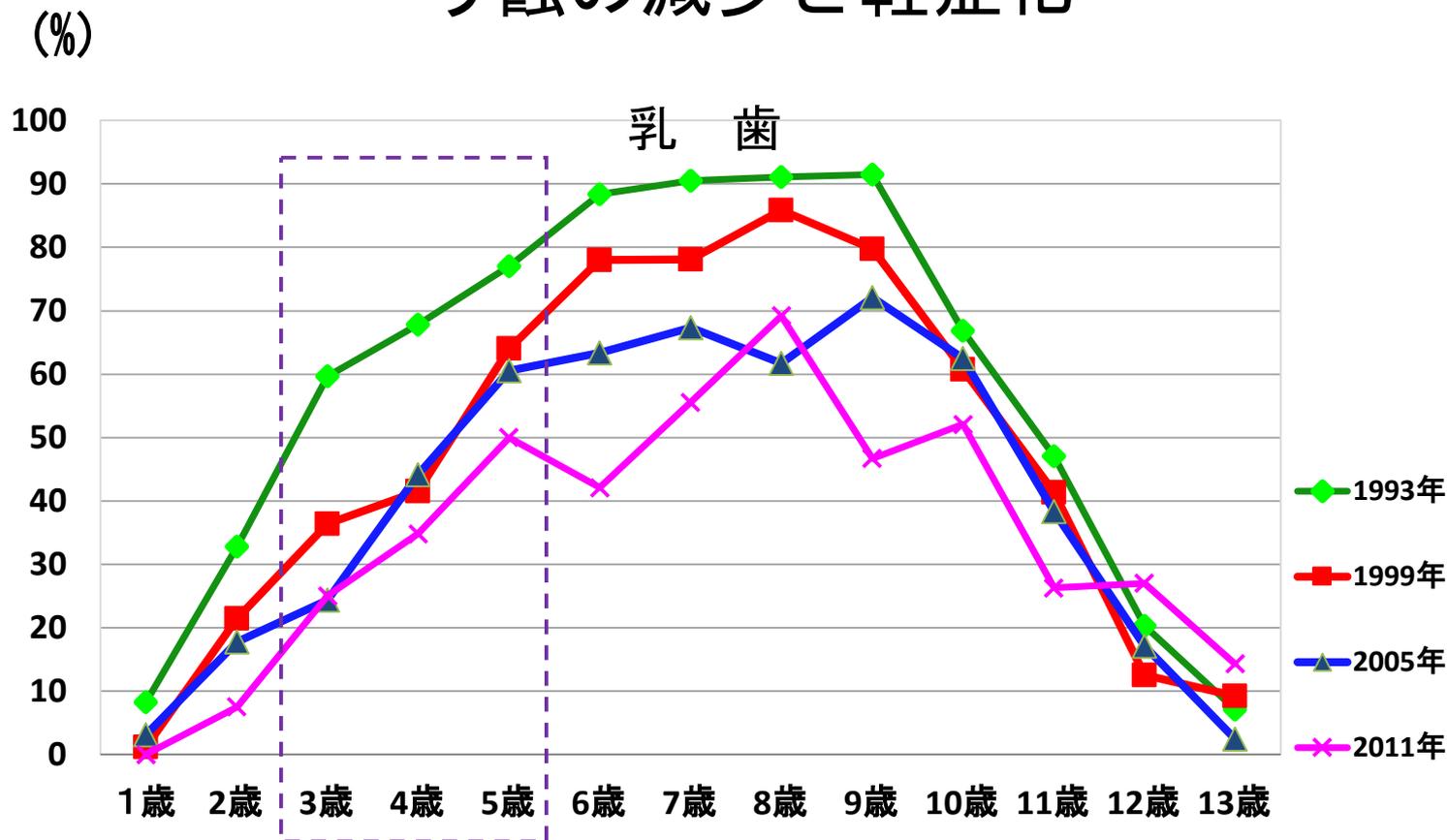
歯科保健分野の 保健指導のポイント

最近の乳幼児の口腔内における問題点

- ★ う蝕の減少と軽症化が進む中での
幼児期の有病者率の増加
- ★ 不正咬合の増加（口呼吸、低位舌）
- ★ 口腔機能に問題を抱える子どもの増加
（口唇閉鎖力、食の問題）

う蝕の減少と軽症化が進む中での 幼児期の有病者率の増加

う蝕の減少と軽症化

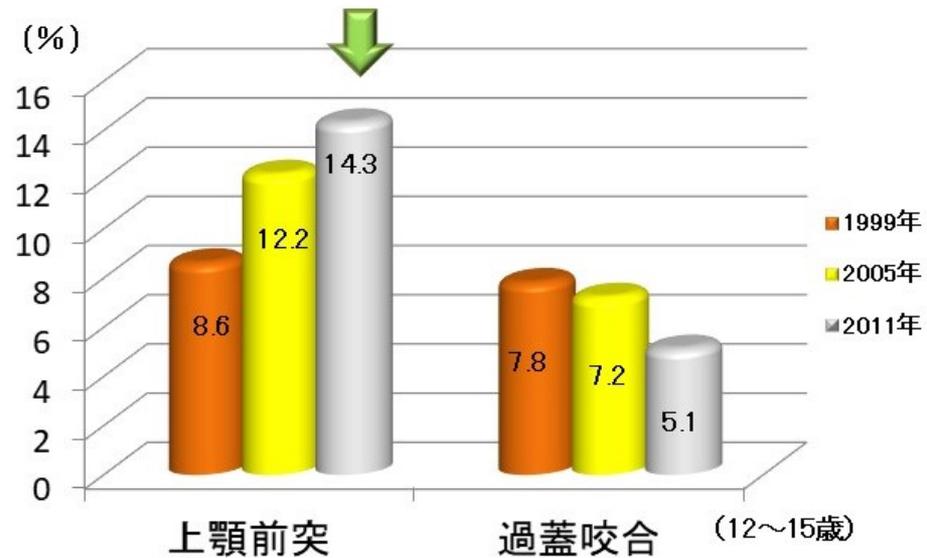
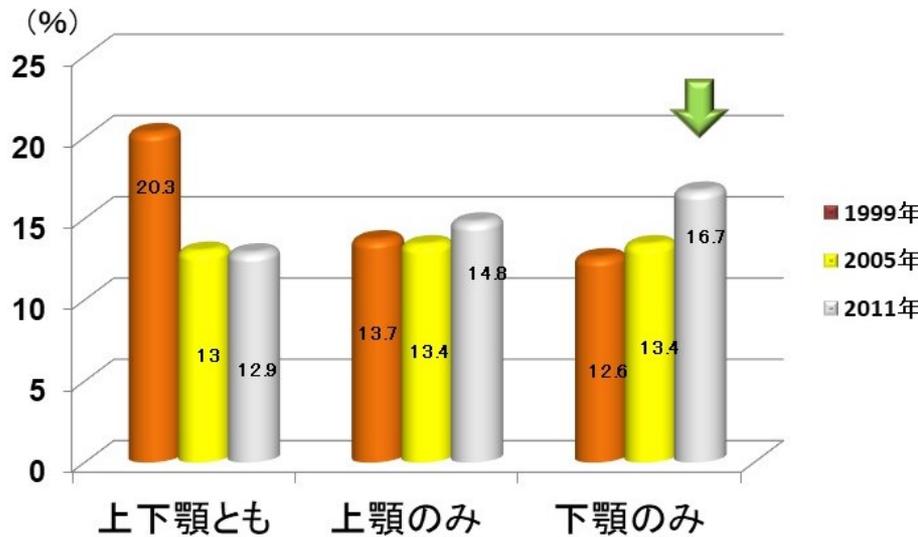


う蝕有病者率の年次推移

出典：厚生労働省歯科疾患実態調査

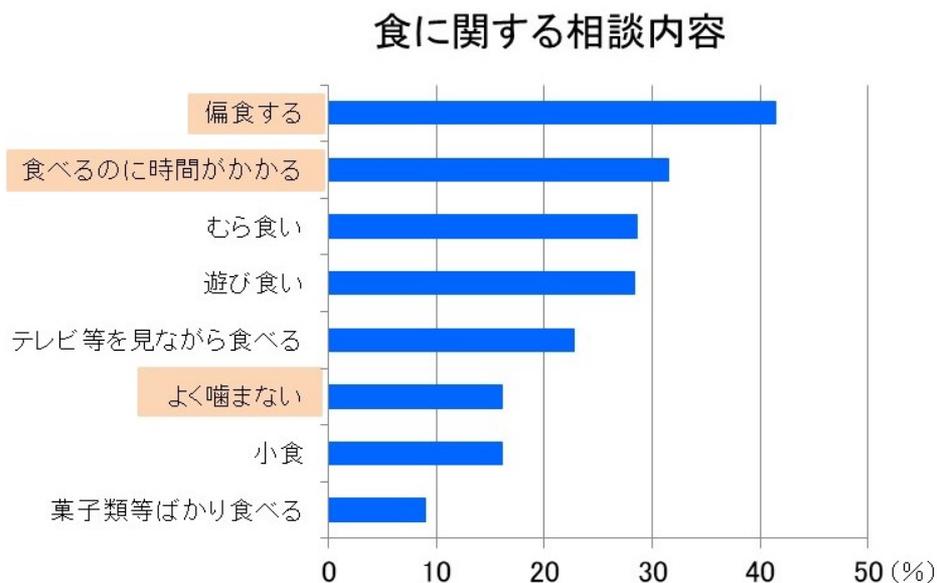
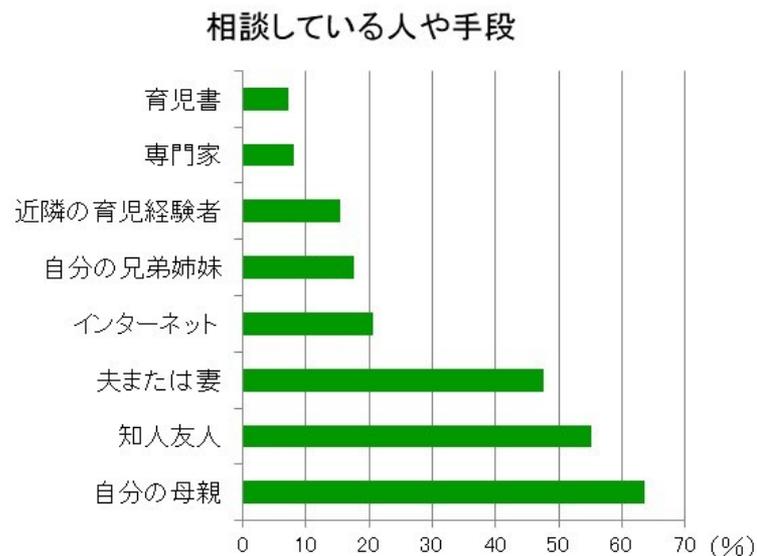
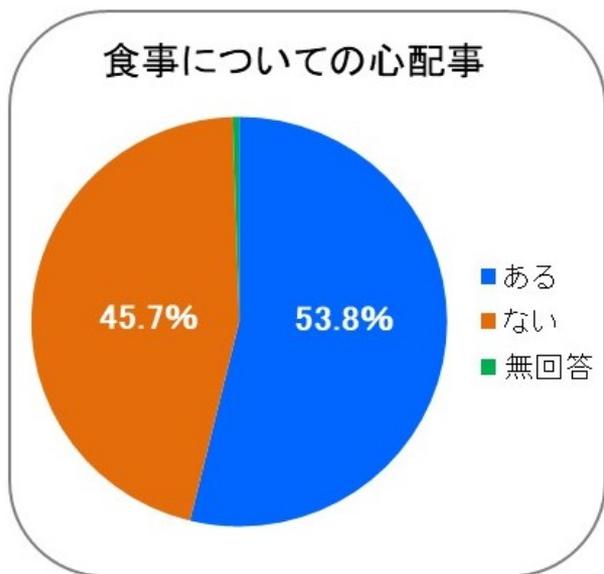
不正咬合の増加(口呼吸、低位舌)

叢生



資料:厚生労働省歯科疾患実態調査(2011)より作図

子どもの食の問題



資料: 日本歯科医学会重点研究 (2015)より作図

年齢と歯の萌出時期に対応した口腔機能発達

5か月頃 経口摂取 準備期	6か月頃 嚥下機能 獲得期	7か月頃 捕食機能 獲得期	8か月頃 押しつぶし 機能獲得期	9-11か月頃 すりつぶし 機能獲得期	12-18か月頃 ～自食準備期	～3歳頃 幼児食 完成
---------------------	---------------------	---------------------	------------------------	---------------------------	--------------------	-------------------

十分な母乳
スプーン飲み口唇閉鎖
哺乳反射
指しゃぶり
舌突出
(舌の前後の運動)

開口時の
舌尖固定
下唇内転
舌の蠕動
運動様運動
での食塊移送

顎・口唇の
随意的閉鎖
上唇での取り込み(擦り取り)

舌食べ
舌の上下運動
舌尖の口蓋皺癖への押しつけ
口角の水平的動き
(左右対称)

歯ぐき食べ
舌の左右運動
左右非対称の口角の引き
頬と口唇との協調運動
顎の偏位

歯固め遊び
手づかみ遊び
手づかみ食べ
食器(食具)食べ
普通食一步手前



乳歯の生え始め

乳歯の生え揃い



健診時の口腔機能発達評価の目安

離乳開始期

- 原始反射、とくに舌突出反射(固形物を舌で排除する)が消失する生後5か月頃 離乳開始のサイン

2歳頃

- 口唇を閉じて食事(嚥下)できるかどうか

3歳頃

- 前歯でかみ切り奥歯ですりつぶすといった咀嚼がうまくできているか
- 道具を使った食べ物の取り込みや、一口量の調節がうまくできているか

4歳頃

- ぶくぶくうがいができるかどうか

フッ化物のう蝕抑制効果

◆フッ化物(フッ素)とは

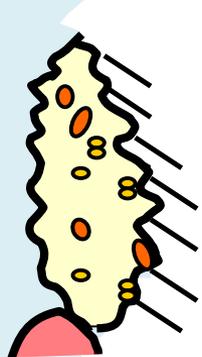
- ・フッ素は、自然界に広く分布している元素で、土の中や海水にも含まれる。
- ・毎日飲む水やほとんどの食品に含まれており、私たちの歯や骨、血液中や軟組織にも存在する。
- ・フッ素元素の陰イオン(F-)の状態にあるものを、フッ化物イオンまたはフッ化物という。

◆フッ化物によるう蝕抑制効果

1. 歯の質を強くする
(エナメル質の耐酸性向上)
2. 再石灰化・結晶性の向上を
助ける
3. 口腔細菌の代謝抑制

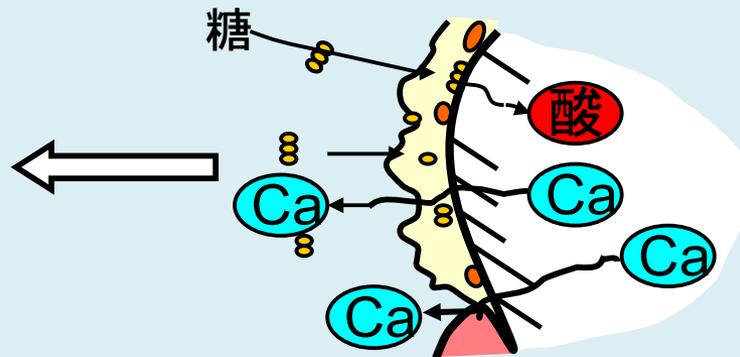
歯の表面でみたう蝕、脱灰、再石灰化の関係

う蝕



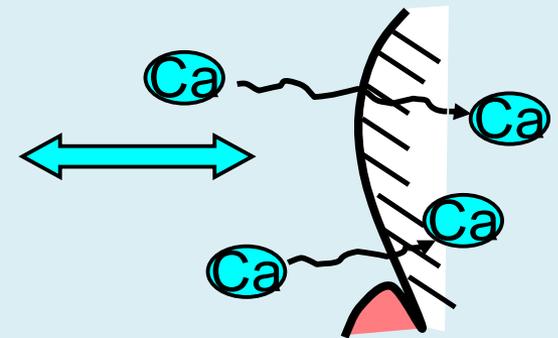
脱灰の状態が長く続くと、穴(う蝕)ができる。

脱灰



プラーク(歯垢)中の細菌が糖を取り込んで酸をつくり、口腔内が酸性になると歯からカルシウムが溶け出す(脱灰)。

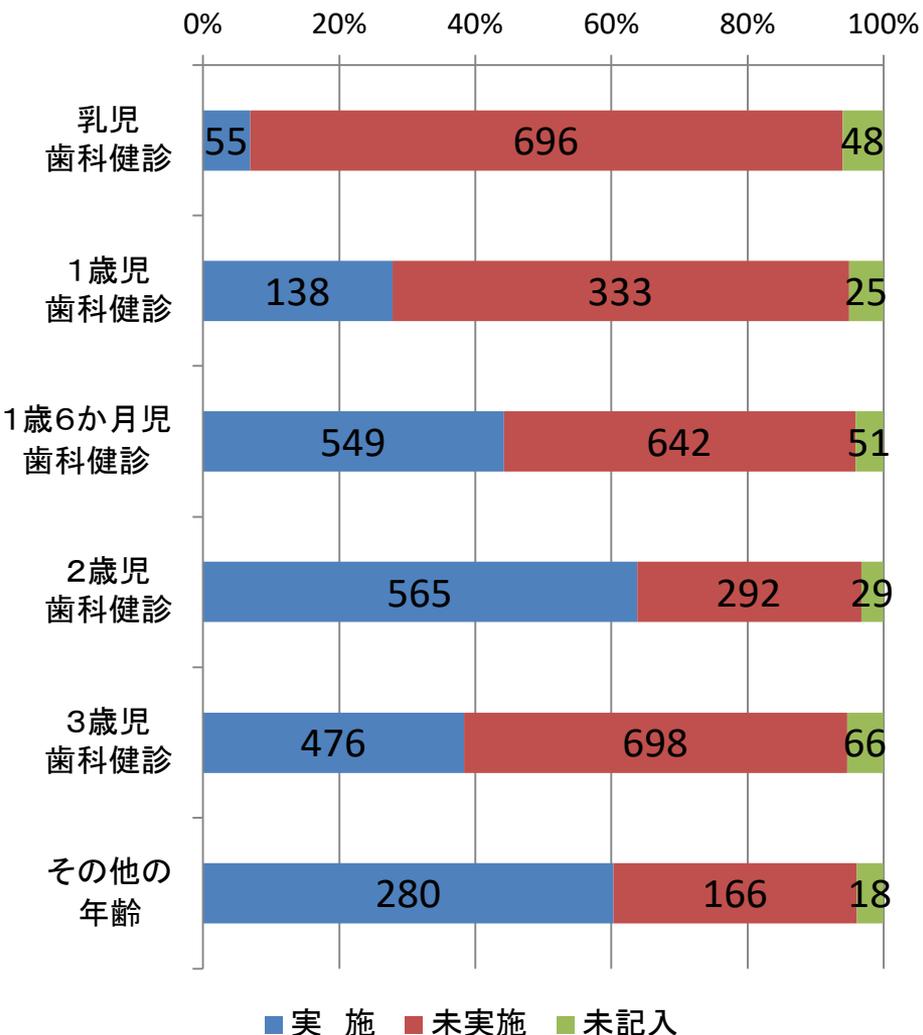
再石灰化



唾液の働きで中性環境になると、フッ化物などの働きで、カルシウムなどが再び歯に戻る。

市区町村でのフッ化物応用の取り組み

フッ化物歯面塗布の実施状況(平成25年度)



フッ化物洗口

- 市区町村では、主に、学校現場で、集団で実施する方法を普及している。
- 全国の幼稚園、保育所、小学校、中学校、特別支援学校のうち、12,103施設(17.4%)で、1,272,577人(10.4%)が洗口を実施している。(平成28年3月現在)

フッ化物配合歯磨剤

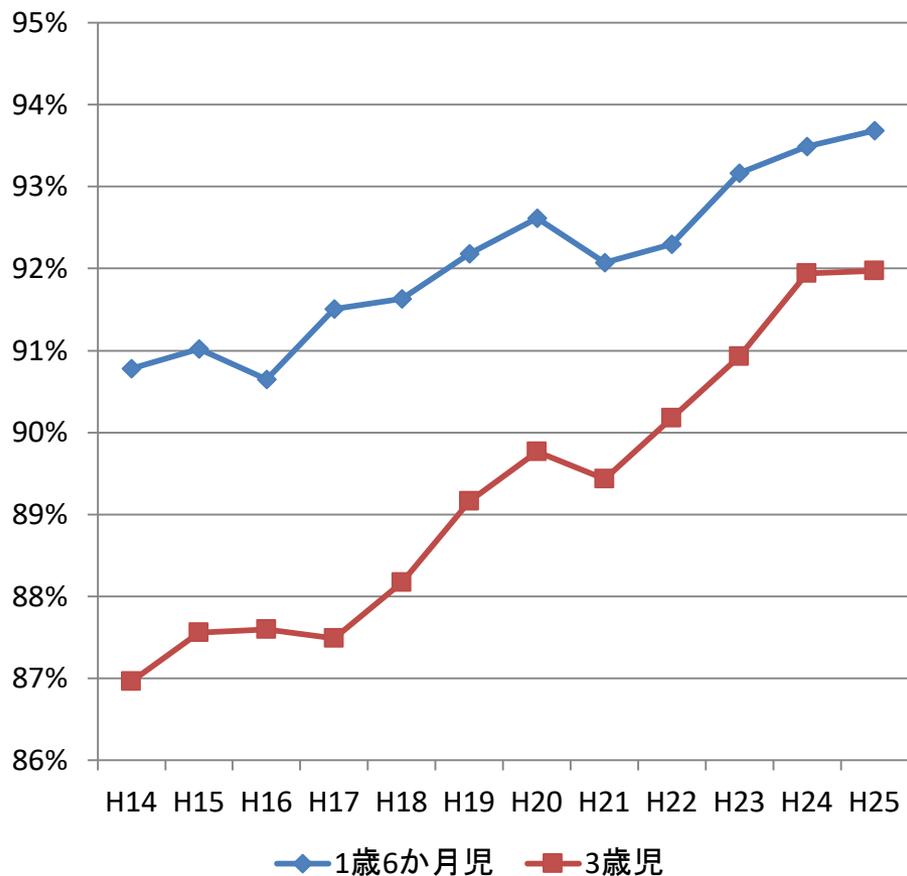
- わが国で販売されている歯磨剤の約9割にフッ化物が配合されている。
- 市区町村では、主に、歯科健診や歯科相談を行う際に、使用を推奨している。

年齢別 フッ化物の利用法

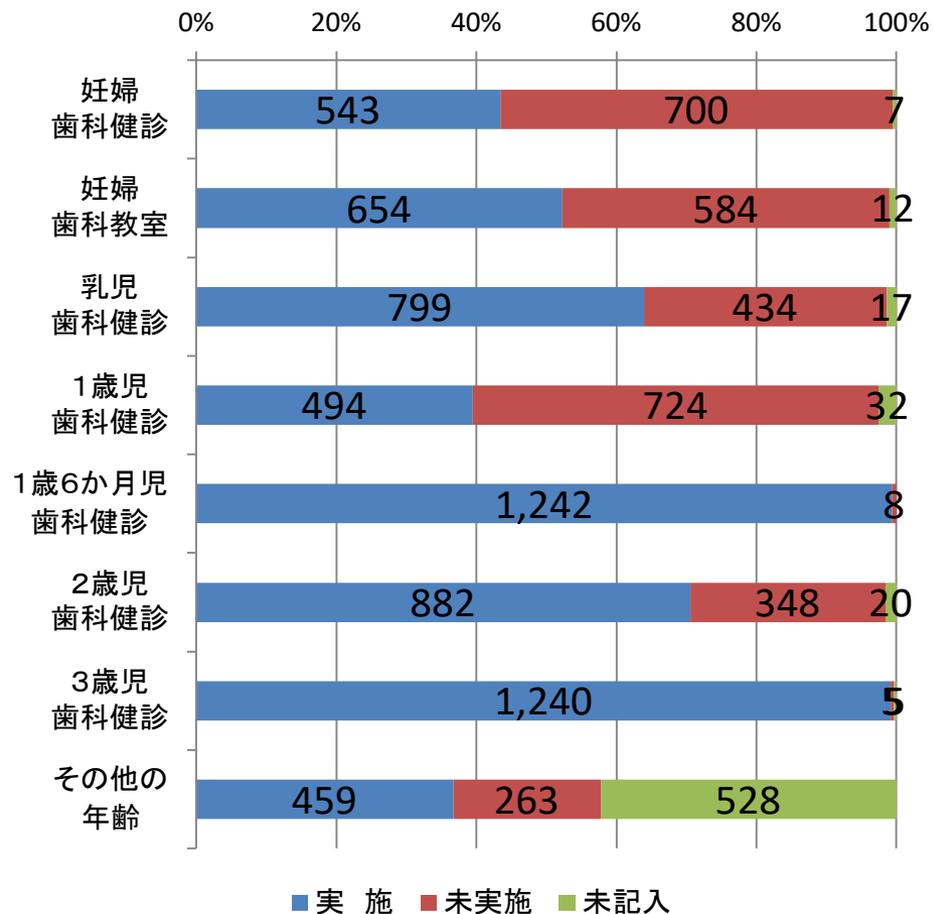
	乳歯が生えてきたら (8～9か月頃～)	前歯が生えそろったら (1歳頃～)	乳歯列が完成したら (3歳頃～)	ぶくぶくうがいができるようになったら (4歳頃～)
フッ化物配合歯磨剤	・仕上げみがき時の使用について説明	・仕上げみがき時の使用状況の確認 ・使用する歯磨剤の量は切った爪程度	・使用する歯磨剤の量は5 mm以下 ・うがいは1回程度	
フッ化物歯面塗布		・年に2～3回程度、定期的に塗布を行うよう説明	・定期的な塗布の実施状況の確認	
フッ化物洗口			・ぶくぶくうがいの練習状況の確認	・フッ化物洗口のう蝕予防効果を説明

1歳6か月児および3歳児健診の受診率およびそれ以外の年齢での歯科健診

乳幼児歯科健診の受診率



歯科健診の実施状況(平成25年度)



歯科健診の機会を利用した保健指導①

生涯にわたって噛むことを主とした食べる機能の基礎構築
～多方面からの総合的な指導や助言(傾聴・共感)～

■ 歯の生える時期

- ➡ 生後8～9か月頃から生え始め、2歳半～3歳頃には乳歯20本が生えそろうが個人差がある。(PP13章-6)

■ 歯みがきのポイント

- ➡ 仕上げみがきは保護者の困りごととして多い。
歯面清掃よりも健康意識・価値観の育成が重要である。
保護者の不安解消を促す。
歯ブラシによる事故防止を周知する。

■ フッ化物の利用

- ➡ う蝕予防の効果・使用方法(PP5章4節-9)

歯科健診の機会を利用した保健指導②

生涯にわたって噛むことを主とした食べる機能の基礎構築
～多方面からの総合的な指導や助言(傾聴・共感)～

■ 食事・食べ方

- ➡ 味覚と食習慣の基礎となる時期である。
食材本来の味を覚え、3度の食事を基本としておやつが影響しないようにする。
水分補給は甘くない飲み物にする。
噛まない、丸飲み、いつまでも口に入れている等食べ方に不安を持つ保護者も多い。口腔機能の発達や歯の生え方を確認し支援していく。
口唇閉鎖による鼻呼吸の獲得。

■ 指しゃぶり

- ➡ 保護者の困りごととして多い。3歳頃までは無理にやめさせるのではなく、声かけや褒めながら様子を見ていく。

多数歯う蝕がある子どもと家庭への対応

他職種連携・地域連携

- 乳歯のう蝕は減少傾向にあるが、その要因はフッ化物応用や生活習慣の他、保護者の収入や学歴等による影響も受け、健康格差が存在することが知られている。
- 2歳児歯科健診等、法定以外の歯科健診を利用し、多職種が関与する育児支援や相談の場とすることもできる。
- 歯科健診が、虐待を受けていると疑われる児の発見と支援につながることもある。
- 幼稚園、保育園、認定子ども園等では、歯や口を題材に歯科衛生士や住民ボランティアが巡回教室を実施している自治体も多い。保健部門と地域の橋渡し役となることも期待できる。

う蝕の保健指導の成果を評価し次年度の事業 評価に活用している市区町村

(n=1,163)

	市町村		中核市・政令市・特別区		計	
	該当数	比率	該当数	比率	該当数	比率
活用できている	453	41.3%	38	58.5%	491	42.2%
活用できていない	583	53.1%	21	32.3%	604	51.9%
その他	62	5.6%	6	9.2%	68	5.8%

全国市区町村1,741か所都道府県保健所366か所、47都道府県の母子保健主管部(局)等を対象に、2015年8月に実施。回答数(率):市区町村1,172件(回答率67.3%)都道府県保健所218件(59.6%)、都道府県39件(83.0%)

う蝕の保健指導の成果を評価し次年度の事業 評価に活用している市区町村での活用内容

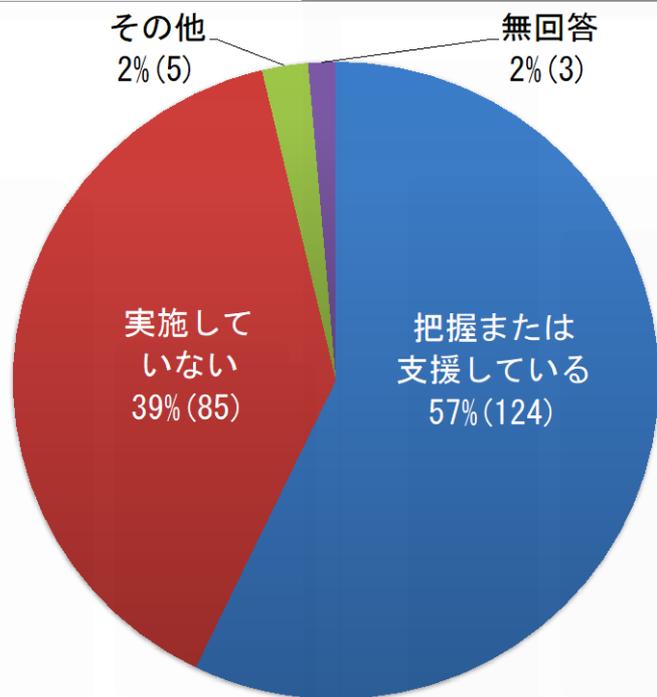
【主な活用内容】

- 事業従事者内で指導内容に反映させている(126市町村)
- 統計を取って評価している(68市町村)
- 検討会・報告会・委員会で活用している(63市町村)
- 歯科健診の事業で活用(24市町村)
- 歯科以外の業種と連携した指導に活用(20市町村)
- ハガキ・パンフレットの作成に活用(19市町村)
- 既存の事業の再検討に活用(17市町村)

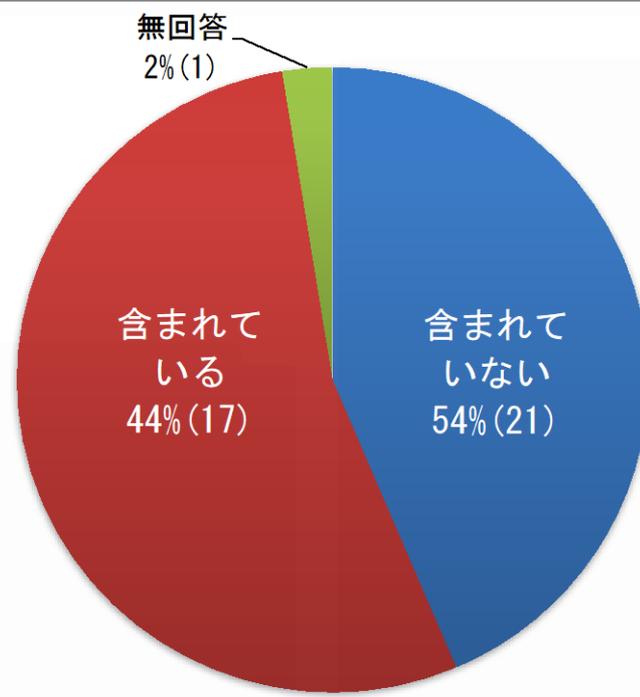
3歳児健診受診者数	う蝕に対する事業評価の活用	
1,000人以上	94	49.7%
500人～999人	69	43.1%
300人～499人	55	37.2%
200人～299人	58	47.5%
100人～199人	76	43.4%
50人～99人	68	45.3%
50人未満	68	32.9%
計	488	42.4%

う蝕の保健指導の成果を評価し次年度の事業 評価に活用している県と保健所

保健所



県



市区町村が乳幼児歯科健診および相談事業 においてう蝕以外で重点を置いている項目

(n=1,135 複数回答)

	市町村		中核市・政令市・特別区		計	
	該当数	比率	該当数	比率	該当数	比率
仕上げ磨きの有無	357	33.4%	12	18.5%	369	32.5%
口腔衛生状態	242	22.6%	15	23.1%	257	22.6%
フッ化物の応用	132	12.3%	17	26.2%	149	13.1%
虐待やネグレクト	57	5.3%	2	3.1%	59	5.2%
離乳や卒乳	41	3.8%	0	0.0%	41	3.6%
摂食・咀嚼機能	39	3.6%	3	4.6%	42	3.7%
習癖(口呼吸・指しゃぶり)	13	1.2%	1	1.5%	14	1.2%
歯並び	8	0.7%	0	0.0%	8	0.7%
軟組織の異常	8	0.7%	0	0.0%	8	0.7%
歯の数や形態	4	0.4%	0	0.0%	4	0.4%
歯の萌出順序	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	134	12.5%	14	21.5%	148	13.0%
う蝕以外の重点なし	48	4.5%	1	1.5%	49	4.3%